

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術 ～患者要因での対象拡大の妥当性に関する前向き研究～
	研究目的	胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術が、年齢・体型・併存疾患などに左右されることなく、安全に行えるか否かを調べることです。リスクが少ない「従来対象」の患者さんと、リスクを有する「拡大対象」の両方の患者さんに参加していただき、安全性が十分に確認されるまで研究を継続します。「拡大対象」とは具体的には年齢 81 歳以上、body mass index が 30 以上の肥満体型の方、おへそより上のおなかに開腹手術の傷がある方、過去に抗がん剤治療や放射線治療を受けたことがある方、他の臓器にも癌を有しているか、最近その治療を受けた方、のいずれか（重複可）が該当します。
	研究期間	212 年 11 月 22 日から 200 例（到達時点で安全性が確認された場合、800 例まで症例登録を延長）
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	研究代表者 神奈川県立がんセンター 吉川 貴己 研究事務局 神奈川県立がんセンター 山田 貴允 登録センター・データセンター 神奈川県立がんセンター 高橋利香
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	神奈川県立がんセンター 神奈川県立足柄上病院